

魔法の美術館

金沢医科大学氷見市民病院 根山正美

7/22～9/3の間、見て・触れて・光と遊ぶ、新しい体験型アート展が高岡市美術館にて開催されました。(今年は全国5会場で開催)
現代ではコンピューターが一般に浸透して、アートシーンにおいてもコンピューターによる表現が飛躍的な広がりを見せています。
本展は、そうしたコンピューターによるデジタルの要素を融合させたアートを展示するものです。



7組の作家13作品の内、一部を紹介したいと思います。

1. 藤本直明さんの Immersive Shadow : Bubbles

壁に映し出された柔らかいボールを、自分の影で触ったり弾いたりすることで映像のボールが変形するため、全身を自由に動かしながら楽しめます。

2. 的場やすし・山野真吾・徳井太郎さんの SplashDisplay

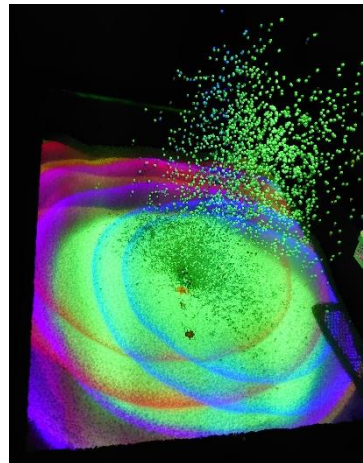
動きまわる的にボールを当てると光の波紋が広がり、幻想的な色とりどりの粒が噴水のように舞い上がります。時に、子供たちの背丈以上の高さにもなり、そのダイナミックさに大興奮。

3. 佐藤江未さんの Pride of Bag closures : type Angelus

日用品などを集合体にした造形に光を当てると、想像もできないような影が壁に現れます。どこがどの部分になっているの?って感じでした。



1. Immersive Shadow : Bubbles



2. SplashDisplay



3. Pride of Bag closures : type Angelus

魔法の美術館は、通常の展覧会では「禁止」されている、触ったり、大声を出したり、写真を撮ったりする事が全てOK!でした。世代を超えて同じ価値観で楽しみ、鑑賞者がまるで魔法にかけられたように体感できる現代アートの世界に触れてみませんか。